
ちまちまエッセイ集

鈴木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちまちまエッセイ集

【著者名】

ZO348Q

【作者名】
鈴木

【あらすじ】

ちまちまと高校生の私が日々思つてゐることを書いていきます。自己満足用メモみたいなものなので「エッセイ」というか「日記」みたいかもしれません。たぶんろくなこと書いていません。

電車の中（前書き）

エッセイ第一弾、初つ端からいやーな感じです（笑）

電車の中で

電車に乗つていつも思うのは、いろいろな人がいるなあということ。

今の今までジョギングしていましたみたいな人とか、渋谷でカリスマメイク師やつてますみたいなギャルの方とか、今釣りから帰ってきたよ今夜は焼き魚だみたいなおじいちゃんとか。

いろいろな人の出会いの場だと思うんだ。皆それの人生を生きていって、それぞれ違う考え方がある。いいことだ。

でも個人的に、あまりかかわりたくない人種の方たちがいる。

今日電車に乗つて、久々に席に座つたら正面の女の子3人組が何やら笑い出した。最初は自分の姿を笑われているのかと思い、お気に入りの本を出して必死で知らんぷりをしていたのだが、どうやら違うらしい。

よくよく話を聞いてみれば、私の隣で寝ている男の子がかわいいとのこと。

なんだ、と胸をなでおろてちらりとその子たちを見てみれば、（こういつては申し訳ないのだが）「いかにも最近の高校生」みたいな格好をしている。一人は金髪でキヤハキヤハと電車の中で大笑い。同車両の端の人気が振り向くのを、私は自分の事のように恥ずかしく思つた。

正直なところ私はこのような人たちが苦手だ。もちろん、仲良くなつてみればそれぞれの良さが解つて、そのような考えがなくなるのだろうが、どうも私は「偏見」が強く、第一印象でその人のすべてを決めてしまうようなところがある。悪い癖だ。

でも、もう少し静かに、もしくは電車を出てから、笑ってくれれば

いいのにな、と思ったのも事実だ。というのも、実はその男の子の隣には彼の家族が座つており、母親の方はあまり気持ちよさそうな表情をしていなかつたのだ。

笑い方と容姿ですべてを決めてしまつのはまづいと思つが、やはりああいう人は苦手だな、と思いながら、私は電車を降り、改札口に向かつた。

すると、何やらお年寄りが困つてゐるのを助けている子が目に入る。さつきの大聲で笑つていた子だ。

こうして私は、今度は彼女を「いい人」と思い込む単純な子なんだなあ、と自分をちょっと悲しく思つた野と同時に、ああ、あの子いい子だ抱きしめてあげたい、と思つた。そんな、今日この頃。

電車の中 (後書き)

「つまくまとまらなかつた… 畏るに私は単純ですよーっと。」
（ 、 ； ）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0348q/>

ちまちまエッセイ集

2011年1月12日20時26分発行